

仮称:X場の正体は?(5)

渡辺 満 (静岡県)

§0 はじめに

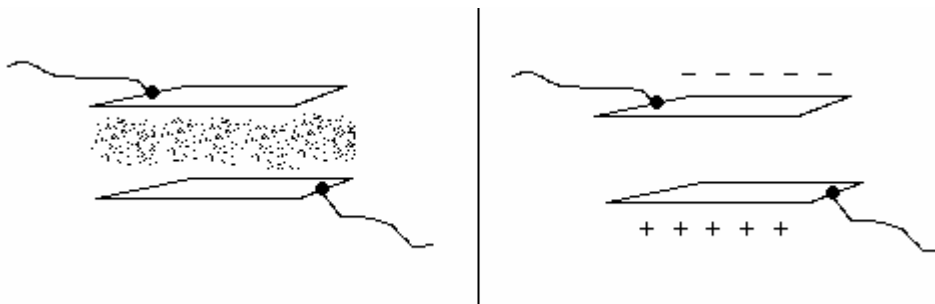
前回(4)では、2枚のブリキ板を用いて、その間のXの透過実験を行ったわけだが、これについて、

もしかしたら、次図(左)のように、電荷が実際にブリキ板の間を飛翔して、透過しているのではなく、

次図(右)のように、交流がコンデンサを透過するのと同じような、そんな形になっているのかもしれない?

そんな疑念が、頭を持ち上げてきた。

これを放っておいて、後でドンデン返しも嫌なので、今のうちに、確認しておくことにした。



結果は、想像していたのと同じで、左図のように、

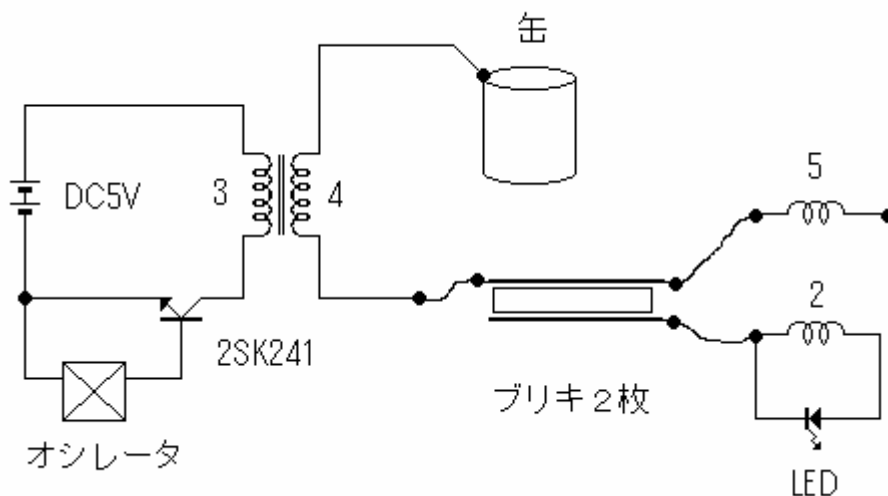
「電荷が実際にブリキ板の間を飛翔して、透過している」ということになった。

もちろん、これは量子力学的な波動だろうから、電子は粒子ではなく、雲のような状態であるに違いない。

今回は、この確認実験を述べる。

「X共振,X粒子,X波,X流体,X放射」などの言葉を、X場の別表現として、適時使用する。

§1 確認実験



回路は、基本的に前回(4)と同じだが、

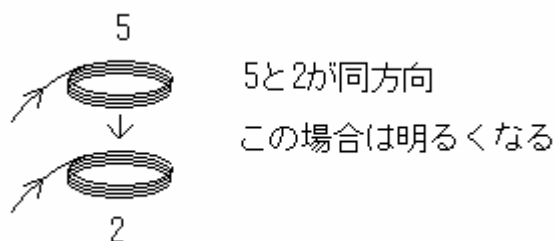
上のブリキ板に、コイル2と同じものを、コイル5として付けた。

すなわち、コイル5は、導線を輪状(直径 4cm)に 13 回巻いた簡単なもの。

さて、コイル2とコイル5を用いて、上/下のブリキ板の電荷の位相を調べてみる。

もし、§0の右図のように、コンデンサ的なものならば、上/下の電荷の位相は、逆になるだろう。しかし、§0の左図のようならば、同位相になるだろう。

例によって、オシレータから高周波電流を流し、周波数を合わせて、LED を点灯させておく。



まず、コイル5と2を、上図のように、同じ巻き方向に重ね合わせると、LED は明るくなった。

次に、一方のコイルを裏向きにして重ねると、今度は、LED は暗くなった(消えた)。

逆向きに重ねた場合は、コイル2と5の磁場が打ち消しあって、コイル2の起電力が低下し、LED が暗くなったのだろう。

このことから、ブリキ板の上/下の電荷は、同位相であると判断した。

2013年6月発行 V1.0

著者:渡辺 満, 発行者:渡辺 満

Copyright 渡辺 満 2013年